

熊野の歴史と文化

林教授（明大）が講演

新宮市は熊野地域 講座を開いた。

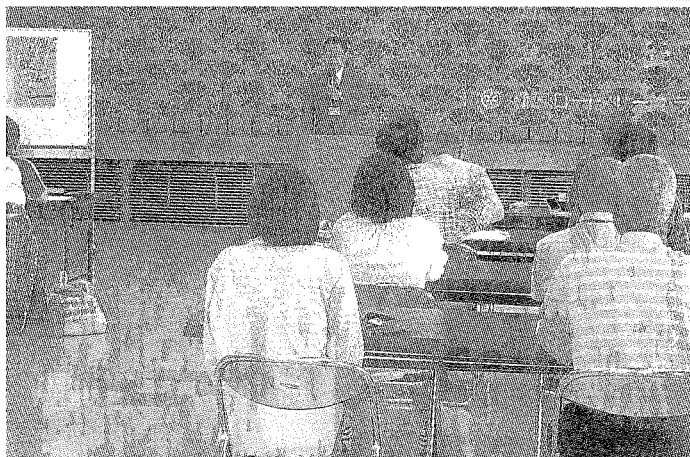
「英語ガイド育成事業」の第1回講義（市民公開）として13日、新宮地域職業訓練センターで林雅彦・明治大学法学部教授を迎え「熊野の歴史と文化」と題し



林雅彦教授

を説明した。

林教授は多くの分野で熊野を研究している。「聖地」としての熊野を自然に対する畏敬・崇拜、熊野信仰の伝承を自然に対する畏敬・崇拜、熊野信仰の伝承、宗教師の活躍、伝播、宗教者の活躍、政治・経済の影響などを説明した。



講演を聴く受講者＝13日、新宮地域職業訓練センター

平安時代の熊野詣でをとりあげ藤原宗忠の「中右記」から、大雨大風の中を歩く事が難行苦行である。2度あきつめて28年後によろやく熊野へいくことが出来た「その時の宗忠の思いを考えると目がうるむになっている」と話した。

文化としての熊野詣でとして、「三熊野信仰」「山の熊野」「海の熊野」とあり、趣旨は流れになっていた。初

死後の救済・現世利益の信仰にあったと語った。江戸時代の熊野詣では伊勢参宮から熊野の岸渡寺から回っていたと話した。

瀬街道と熊野街道伊勢路殿分岐点で死装束の白衣に着替えて西国33所の第一番・那智山青